

令和6年度中国地区私立幼稚園教育研修会岡山大会分科会報告

第5分科会			研修俯瞰図番号
テーマ	絵本の読みあいから紡ぎ出されるゆたかなコミュニケーション		
講師	村中 李衣 先生 (山口学芸大学客員教授/児童文学作家)	会場	ホテルグランヴィア岡山
ねらい	日々子どもたちとの関わりの中で、子どもたち同士、あるいは先生と子どもとの豊かなコミュニケーションを紡ぎ出す方法を、具体的にいくつかの絵本をベースに考える。併せてそうしたコミュニケーションの現場をどう記録していくかについても話しあっていく。		
日程	8:45 受付開始 9:00～10:30 講演 10:30～11:30 講演をベースに、それぞれの現場で活かそうな試みについてグループで話し合う 11:30～12:00 グループ発表		

《内容》

先生御自身が、新幹線の中で出会った一人の女の子のエピソードを交えながら、素話「怖い話」に皆が引き込まれていく



むかしむかしあるところに くらーいくらーい
もりがあってね
そのもりのなかに くらーいくらーい みちがあってね
そのみちをあるいていくと くらーいくらーい
いえがあってね、……………

先生のやさしい声で物語の世界へと皆を連れて行ってくださる

相手の心に届くように声を出すことを2人組で試してみる



声の道を通して、愛を届ける、心地よい気持ちが思い出となり、子どもが大切だと伝えていく

保育者・教育者の声は愛しているのサインである

絵本 「さわらせて」(アリス館)を参加者で読み合い、先生のご助言に会場の皆が思わずほっこりする



最後に各グループごとに、本日の研修について話し合い、深める



《まとめ》

前半は、子どもがゆったりと物語の世界に入っていけるような絵本の導入の大切さを教えていただいた。「読み聞かせ」の技術にとらわれすぎず、「読みあい」による心の響きあいを大切にし、絵本を読むときには教師と子どもと一緒に物語の世界に入っていくことが重要である。絵本を読むときに大切なことは、技法ではなく子どもの心に届く声で読むことである。あなたが大切だという気持ちをもって読むと、声の道を通して子どもに伝わり、その心地よい気持ちが思い出となり残っていくということを学んだ。

後半はグループで話し合い学びを深めた。共感の基本であり、子どもに「寄り添う」視点から「立ちあう」視点で考えた。今後の保育に活かせることのできる有意義な学びの時間となった。

《担当園／記録者氏名》

ノートルダム清心女子大学附属幼稚園 苫田 裕子 豊田 真智子